

2009 JSDE /hk

発行 社団法人日本設計工学会北海道支部

監修 竹内 茂（支部長）、菅原幸夫（幹事・HP 委員）

平成 21 年度 見学会

平成 21 年 8 月 21 日(金)に行われました表記事業に就き、順にご報告申し上げます。
第 1 見学場所 : 株式会社ミツウマ

(小樽市奥沢 4 丁目 26-1, 民生・工業用ゴム製品製造)

一行 11 人は午前 10 時に当社に集合し、はじめに製造部工業用品製造担当 岡林孝一次長から説明を受けました。当社は大正 8 年に北海道護謄工業合資会社として発足し、現在は社名を株式会社ミツウマとして、創業 90 年を迎えております。

主に、林業や水産業、電子部品関係の静電性能を有する製品、さらには橋梁などの制震材も供給しています。説明後、つなぶち氏にもご同行をいただきまして、原料から見学を始めました。

当社製作の「ゴムぐつのしおり」(はがき大 6 ページ)は大変わかりやすく、見学時にたいそう役に立ちました。機械系ですと機械(工業)材料関連の授業科目では硬さにつき学ぶのですが、ゴムのそれについてはわずか或いはほとんど学びません。今般、ゴムの硬さや滑りにくさについて改めて勉強いたしました。原料に薬品を混ぜて調質し、製品を形作った後加硫し、検査したあとで製品として出荷されます。

またゴムの性質は製作後の酸素等の環境により変質するようで、なかなか奥の深い製品であることを実感しました。

私事ではありますが、小学生のときに学校行事として当社を見学しました。工場を見学してまもなく、においがその当時の記憶を呼び寄せてくれました。非常に懐かしく感じられたにおいでした。昨今の社会を鑑みますと、長きにわたり存続する会社があるということは誠にうれしく、ありがたくも感じました。



原料の生ゴム



加硫



正門前にて

第2 見学場所 : オーエスマシナリー株式会社 小樽工場

(小樽市銭函 3 丁目 511-12, プラスチック容器用精密金型製造)

当社の見学は 13:30 分から始まりました。会議室にて工場長補佐 柳田雅直氏から会社の沿革および現在 ホッカンホールディングズ株式会社を核とするグループにおける位置づけを伺いました。当社は旧社名小樽製作所で、昭和 49 年に北海製罐のマシンショップとして創業を開始しております。現在は製造機械の設計・製作から製造ライン、さらには工場建設までを範囲としております。今回の見学では設計技術に関する最新の手法を拝見できました。工場長補佐 宮川達哉氏のご説明はもとより、手際よい操作が我々の耳目



金型

を集めました。設計ツールベンダーとの共同により高機能化したツールの使用で、設計時間の著しい短縮が図られたと伺いました。従来の机上設計に対応する部分の精度も当然向上したわけで、試作等の行程も改善されたとのこと。現在進行中のプロジェクト故、ここにご紹介できないのがまことに残念です。

見学では金型や自社製品である液体小袋充填機を拝見しました。これらから当社の高度な技術レベルを幾分垣間見ることが出来ます。

今回の見学では、滅多に見られないものまでご案内頂きましたこと、紙面をお借りしてお礼申し上げます。



液体小袋充填機の背面



正面にて

(文責：幹事 菅原幸夫)